



倉中だより

伊勢市立倉田山中学校

伊勢市神田久志本町 1645-2

校長 伊豆 敏

電話 22-9415

FAX 22-2198

E-mail

kuratayama@jr.ise-mie.ed.jp

学校教育目標 「心やさしく、たくましく、知性豊かな倉田山中学生の育成」

◇青年劇場「きみはいくさに征ったけれど」演劇鑑賞◇11月29日・30日

「竹内浩三生誕100年記念事業」の一環として、東京から青年劇場さんに来ていただき「きみはいくさに征ったけれど」の演劇鑑賞を行いました。いじめを受け、生きる気力を失っている主人公、宮斗の前に竹内浩三が現れ、主人公と交流する中で、主人公が限りある命の大切さに気づき、生きる気力を取り戻していく物語です。竹内浩三は1921年に伊勢市吹上町に生まれ、明倫小学校、宇治山田中学校（現在の宇治山田高校）、日本大学を卒業。その後、友人たちと同人誌を創刊し詩や短編小説の創作に励みました。1945年に戦死した後、遺稿集が公表され評価が高まりました。現在、明倫小学校やぎゅーとら人間通店に竹内浩三の詩のパネルが置かれています。

劇は学年別に3公演していただき、生徒は2時間の劇にいつの間にか引き込まれていました。この劇で校区出身の竹内浩三やその詩をより深く知るきっかけになればと思います。

○生徒の感想文（抜粋）

- ・「そこ笑うとこや〜」が面白かった。…でも笑えなかった。
- ・「生きるとは何か」考えさせられた。
- ・自分が共通語だと思って使っていたものが伊勢弁だということも発見できて面白かった。
- ・一つ一つの言葉に納得する所や、心にしみるものがあり、本当に感動した。
- ・自分も宮斗と重なる部分があって、「学校に行きたいくないな」とか「毎日不安やな」って思うときがある。でも自分自身も変わらなきゃいけないんだと思うシーンもあったように思った。
- ・生きるということは楽しいだけでなく辛いこともあるが、どうとらえるかが大切だということに気づかされた。
- ・劇の中で浩三が「みんな死にたくないんだよ。だから自分はどうできなかったあ」に戦争の悲惨さが伝わってきた。
- ・私にとって生きることは、ただ息をして心臓が動いているだけではなくて、自分がうれしい、悲しいという感情、ああなりたい、こうしたいという希望があって生きているという事だと思った。
- ・竹内浩三が幽霊ではなく浩三の心の中にいたということがわかった時、誰の心にも浩三がいるのでは？と思った。
- ・死にたいと思う気持ちから生きたいと思う気持ちに変わる所で、自分にもすごく勇気をもらった。
- ・「わからんっちゃうことも生きとることになるとちゃうか？」と宮斗を励ます姿が印象に残った。
- ・「三つ星さん」のパネルが明倫小学校にあるのは知っていた。全ての詩が心にしみた。
- ・「いじめの怖さ」「戦争での悲しい別れ」「生きること」について真剣に考える時間が出来た。
- ・主人公が最後に「自分も生きてみよう」という気持ちが伝わってきて涙ぐんでしまった。
- ・劇団の方々には感謝しかありません。一度きりの人生をどうやって生きていくかよく考えさせられました。



◇倉中生の活躍◇

○第50回三重県小中学校競書会（11月28日）

【特等】山口 来夢（3-3）、竹谷 早織（2-4）、松岡 夏由（2-4）、鈴木 優陸（2-5）

徳津 翔太（1-1）、小林 紗也（1-2）、西岡 優心（1-4）

【1等】川嶋 賢（3-1）、上埜 遥子（2-1）、中川 夏希（2-1）、湯目 遥奈（2-1）

濱口 莉乃（1-3）、松岡 良波（1-4）、武藤 陽奈（1-4）

【2等】橋本 真乙（3-1）、森 彩葉（1-1）、山本 美憂（1-2）、梅田 花凜（1-5）

家田 大輝（1-3）、橋本 隼（1-3）

○第71回社会を明るくする運動作文コンテスト

【優秀賞】杉山 愛華（2-3）

【特別賞】濱口 壘（2-1）、西村 菜那（2-2）、久保 光咲（2-4）、大野 蒼唯（2-5）、吉永 桃菜（2-5）

○第22回南勢地区長距離選手権大会（11月27日）

中学1年生女子 2000m 3位山際 奏媛（1-2）

◇年末年始の日本の伝統的な行事について再確認しよう◇

年末は各地の寺社で「すす払い」が行われ、「餅つき」も行われます。12月31日の「大晦日」の風物詩としては、「年越しそば」が思い浮かびます。江戸時代頃から食べられるようになったそうで、そばのように「細く長く健康に暮らせるように」とか、金箔職人が飛び散った金箔を集めるのにそば粉を使ったことから「そばはお金を集める縁起のよいもの」とかという考えがあるようです。大晦日の夜更けにお寺で撞かれる108つの「除夜の鐘」は、仏教では人間には108つの煩惱（一切の欲望・執着や怒り・ねたみなど）があり、鐘を撞くことでこれらの煩惱をひとつひとつ取り除き、清らかな心で正月を迎えると言われていています。

元日は新しい年をお祝いする大事な日です。1年の始めに、その年の豊作と家族の健康を守る歳神様がやってくると考え、それを「門松」「しめ縄」「鏡餅」でお迎えます。「おせち料理」や「お雑煮」を食べたり、「初詣」に行ったりもします。「お年玉」は、歳神様に供えたお餅を子供たちに食べさせ、このことを「御歳魂（おとしだま）」と呼んだことに由来すると言われていています。「凧揚げ」「百人一首」「はねつき」「福笑い」等は、伝統的なお正月の遊びです。昔から「立春の季に空に向くは養生のひとつ」と言われ、「凧揚げ」は新年の遊びとして親しまれ、その表情を見て笑い楽しむ「福笑い」は、正月から笑うことで福を招くとも言われています。

昔から伝わる行事や遊びの由来には諸説ありますが、いずれも人々の幸せを願う思いが込められています。近年、社会や生活様式、価値観等の変化、多用な日々の中でこういった文化が見過ごされてしまうことも少なくはありません。外国の文化がたくさん入ってきたり、日本で新しい文化が生まれたりしていますが、年末年始という機会に今一度、日本の伝統や文化の良さを再確認してみてもいいのではないでしょうか。

◇冬季休業期間中の土曜日や日曜日、祝日、学校閉校期間中の緊急連絡先について◇

冬季休業期間中の土曜日や日曜日、祝日、学校閉校期間（12月29日～1月3日）に緊急を要する事柄（事故、事件、命に関わることなど）に限り、緊急連絡先として伊勢市教育委員会事務局学校教育課に連絡をお願いします。また、新型コロナウイルス感染症に罹患、PCR検査を受けた、濃厚接触者に指定された等の連絡もお願いします。

年末・年始は1年間の中でも最もあわただしい時期です。事件・事故などに注意して、元気でお正月をお迎えてください。1月6日（木）に元気に登校してくれることを願っています。

《緊急連絡先》 伊勢市教育委員会事務局 学校教育課 TEL0596-22-7881

《伊勢市教育委員会事務局に連絡する場合の手順、注意事項》

- ① 倉田山中学校、学年、クラス、名前（生徒名）を伝える。
- ② 緊急連絡の内容を伝える。
- ③ 折り返し連絡できる連絡先を伝える。

◇有意義な冬休みに!!◇
短い冬休みですが生活のリズムを大切にしましょう。